

児童養護事業の原点！
社会事業史・児童教育史研究の
重要資料！

編集復刻版

『上毛孤児院 関係資料集成』

全5巻十付録DVD1枚

上毛孤児院（群馬県）は、濃尾大地震による「震災孤児」の惨状に触発されて設立され、災害や凶作、貧窮から保護者を失った子どもたちをまもり育てた施設として、「西の岡山孤児院 東の上毛孤児院」と並び称された戦前期児童養護施設の草分けである。
本資料集成は、機関誌『孤児の友』『上毛孤児院月報』および関係諸資料を網羅的に収集し、編集復刻！
また、当時の孤児たちの様子や世相・風景を映し出す、幻灯用ガラス原盤（画像データ約二〇〇点）を付録としてDVDに収録、詳細な解説を付して刊行！

◎編・解説——宇都榮子（専修大学教授）

細谷啓介（上毛愛隣社理事長）

◎揃定価——十一万円＋税

六花出版

「西の岡山孤児院、東の上毛孤児院」と、石井十次の岡山孤児院と並び称された上毛孤児院は、一八九二(明治二五)年、群馬県前橋市に開院した。

創立したのは旅館を営むクリスチャンの宮内文作と質屋の横地源七郎であった。宮内は、泊まり客から前年の濃尾大地震による「震災孤児」の惨状を聞いて孤児救済を使命と受け止めたのである。主任として実際に子どもたちの訓育にあたった二四歳の金子尚雄は、開院の直前、岡山孤児院に石井十次を訪ねている。

こうして「無告可憐の孤児を救養する」ことを目的に開院した上毛孤児院は、新島襄をはじめ多くのキリスト教指導者と社会事業家を輩出した上毛の地で、先駆的な児童保護事業を展開する。しかし寄付だけによる運営は常に厳しく、幻灯機や楽器を使用した慈善幻灯会・活動写真会や慈善演芸会などの募金活動、慈善袋を農家に配って米・麦・大豆を入れてもらうなどのほかに賛助員を募集して安定した収入の確保に努めた。また子どもたちの数が増えるにつれ、院児の職業教育を意図して園芸部を設置し、さらには北海道農場の開拓が計画され、一九二四年に実現する。機関誌『孤児の友』は、一八九九年に創刊された。そこには上毛孤児院の理念と入院までの子どもたちの窮乏状況の報告、在院中の様子、子どもたち自身の作文、退院後の状況、そして慈善演芸会の報告、入出金の状況などが記録され、院の様子が生き生きと伝わる。創刊時は月刊であったが、一九〇三年三月に『上毛孤児院月報』に改題、一九一〇年頃から隔月刊ないし不定期刊となる。

本資料集成は、児童養護事業の草分けである上毛孤児院の活動を明らかにする貴重資料として『孤児の友』『上毛孤児院月報』を創刊から一九三九年(第一七七号)までを復刻(第一四六号以降については、寄付者名簿を除く部分の抄録)、上毛愛隣社所蔵の関係資料をまとめて「上毛孤児院関係資料」として第五巻に収録した。同巻には解説を収載し、総目次をCD-ROMに収め、巻末に付す。

また付録として、幻灯会で上映されたスライドのガラス原盤約二〇〇枚をDVDに収録した。日清・日露戦争を鼓舞するものや衛生思想普及のものなど、市販されたと思われるスライドもあるが、ほとんどが上毛孤児院の子どもたちの日常生活を写しだし、また孤児院に辿り着くまでの様子を紙芝居ふうに住立てたものなど、上毛孤児院を紹介する貴重な画像記録となっている。中には明治三陸大地震(一八九六年)の孤児の写真も含まれている。

震災など災害や貧困などによって子どもが子どもとして生きていく権利が脅かされるという事態は、現代においてもなお深刻である。そのとき社会はどのようにして子どもの人権を護るのか——その問題提起にこたえる近代の児童養護史・児童教育史の貴重資料として刊行するものである。

上毛孤児院関連年表

西暦	年号	年
1887	明治20	岡山孤児院創立
1891	明治24	濃尾大地震(岐阜・愛知地方)
1892	明治25	上毛孤児院創立(群馬県前橋市)
1894	明治27	日清戦争
1895	明治28	養蚕を始める
1896	明治29	三陸大地震
1899	明治32	東京孤児院創立
1901	明治34	「孤児の友」第1号発刊 田中正造来園 感化法発布
1902	明治35	石井十次来園 留岡幸助来園 財団法人認可
1903	明治36	幻灯機購入。第1回幻灯会 富岡町「中村座」 「孤児の友」50号を記念して「上毛孤児院月報」と改題
1905	明治38	札幌慈善音楽会
1906	明治39	東京慈善会
1907	明治40	里預け開始 幼時は里親に委託し、学齢に達すると院に引き取る
1911	明治44	北海道農場買収。農場開墾開始 横浜市の慈善家の寄付により、映画「小公子」の東洋での上映権を得、創立二十五周年記念拡充事業のため各地巡業
1913	大正2	活動写真機購入
1923	大正12	関東大震災。震災による迷児24人収容
1924	大正13	前橋幼児園落成
1930	昭和5	北海道農場開墾成功 救護法実施 石川館落成 出身者の寄贈
1939	昭和14	「上毛孤児院月報」終刊
1941	昭和16	財団法人上毛孤児院を財団法人上毛愛隣社と改称
1944	昭和19	岩神幼児園開園
1945	昭和20	前橋幼児園戦災全焼

孤児の友

第 一 號
倚伏なき者は
身を汝に委ぬ
汝は昔より孤
兒を助けたま
ふものなり
詩十四

目次

- 孤児之友
●發刊之辭
●論
●上毛孤兒院
●院兒の履歷
●文苑
●和歌數首
●雜報
●青年諸氏の厚意
●岡田虎松氏
●豫約寄附者
●廣告

孤児の友

發刊之辭

天下不幸の人孤兒に及くものなるべし彼等は東西を問はずはなき身を以て不慮の天

變地妖病災等に遭遇して一朝父母を失ひ兄妹と別れて恩愛の手絶るに由なく遊び戯れし樂しき家庭も忽然として消へて跡なく飢に苦み寒さふ泣くの悲境に沈淪し流轉々頑鈍無智の惡童と成り果てんとするを見れば誰れか一掬同情の涙を灑がざるを得んや

回顧すれば既に七年前彼の尾濃地方に大震災ありし時吾人をして轉た同情の涙に咽はしめたるものは父を尋ね母を慕ふて路傍に彷徨する孤兒の物語にして就中最も哀痛悲傷すべき一條の慘話は端なくも吾人を奮起せしめ如何にもして彼等數人を教育せんと企圖せしこそ實に上毛孤兒院の設立せらるゝ動機なりき然れども吾人素と産あるに非ず兒童教育の經驗ありしに非ず只有つ所の身を献けて孤兒と生涯を共にし彼等か失ひし家庭の快樂を回復し彼等の爲めは第二の祖父となり父母となりて園樂の樂みを得せしめ之を愛護し之を教養し以て獨立自治の良民たらしめんことを期し敢て其使命を負ひたるのみ

爾來事業の好果を祈り發達を冀ふの念は一日も止む時なかりしと雖も心なき世人に誤解せられ徒ら爲難と嘲笑とを招かんことを慮りて毫も廣告的の舉動を爲さず自ら進んで強て金品の寄附を促さず必靜かに時機の到るを待ち以て自然の發達に任せたり然れども皇天の祝福優かにして絶へず其惠護を蒙り世上亦幾多の知己ありて常に其贊助を蒙り事業は著々其歩武を進めて將に一新紀元を開かんとするの運に到りぬ感謝せざるを可けんや故を以て茲に 今後毎月一回本紙『孤児の友』を發刊して諸君の前に致し廣く世間に頒ちて事業の成績を報し併せて本院を社會に紹介して相互の聯絡を保ち更に知己を天下に求めて將來の畫策を爲さんとす若し夫れ本院の經歷と現在の狀況等の如きは順次之を録して紙上に活現せしめんことを期す

『孤児の友』の發刊に就て

主任 金子 尚雄

本院の事業漸く緒に就き前途益望み多く行末雖もしく思はるゝ見等の數々へ最早双手を折り盡す程なる現在の狀況に達したるを以て尙一層事業を擴張して治く無告の孤兒を收養すると共に専心一意以て其教導を遠らるることを期し今日迄歸りたる天恩の深きに酬ふ

と相開き候ふ處町内有志諸君より舉て賛して會費中へ金圓を寄附せらる依て之を別途會計となし別紙の通り剩餘金四圓〇三錢二厘を貴院に贈り有志諸君の厚意を虚しくせざらんことを相謀り申度く候ふ間幸に御受納下され度く候ふ敬具

明治三十六年二月十七日

碓氷郡安中町第二區少年會々長

金 井 治 郎 吉

上毛孤兒院御中

院兒の消息

金六圓昨日正に受取ました深く感謝を申上ます受給はれば父上様には御病氣にて有りし由

與へられたる此の大責任を全たうして皆々様の萬恩の一に報いたさことを否報いねばならぬこと、決心致して主の御祐けを祈り居ること、御座りますぞ小生のため御感謝下さる將來のため御祈り下さい卒業後の方針が此の如く定まりましたから徴兵検査は最早にて受ける順序に御運び下さる様願います先日御願ひ申上ました着物羽織ハカマヒ等を卒業式前に御都合して御送付下さいそして又卒業式前に彼れ此れ三月の食料小遣の外に四五圓入用のこと、思ひますから是を最後と思ひ御都合下さる様前に願ひ置りますもうしばらく前橋市にも歸へられぬこと、思ひます

ては殆ど御全治のことをき、主る次第です小生卒業後の方針は二後一時訓盲院内に開かれたる訓盲院で決定せられました夫れは別のこと、りません四月以後訓盲院教員不足を教員兼舎監に命ぜられましたことは訓盲院目下會計困難に付當分一面と定められました嗚呼小生が是れをしたことは神様やキリスト様の御恩も有りませんがひとえに御両親様の老人森先生の厚き御助力に因ること、主に感謝し感謝致すと共に神より

●『上毛孤兒院月報』第50号（一九〇三年三月）

すからお花の獨り寫しのシャシと父母上のシャシとを一日も早く都合して御送り下さる様切に願ひ上ます此のことはあまり無理では御座りませうがとくべつを以て一日も早く願ひます五月大坂に御出の節は是非御立ち寄り願ひます御待ち申すまだ此の外種々申上たき事も有りますが尙委細は卒業後申上るつもりです右御報知ならびに御禮迄草々不備

二月廿八日午後九時
御両親様
碓氷郡訓盲院
玉 吉 拜

一山參事官を送る

元群馬縣參事官一山直祐氏は山口縣參事官に榮轉せられ、去月二十三日を以て任地へ出發せられた、氏は本縣に在職せらるゝこと五年間、治績の見るべきもの素より多々なるべしと思はるゝが、吾人が今之を囑するの必要はない、唯吾人の記憶せざるべからざることは氏が赴任の當初より縣下の救済事業に注意せらるゝこと最も深く絶へず其發達を促して止まなかつたことである、氏は歐米諸國の地方制度を研究せられ市町村制に精通せられてゐたといふことであるが『地方行政の發達に伴ひ是非とも救済制度を完全にせざるべからず』と吾人の願ひにした氏の持論であつた

十九世紀末、社会事業メディアの誕生

室田保夫(関西学院大学教授)

群馬県前橋の地にキリスト者宮内文作、金子尚雄らによって上毛孤児院が誕生したのは、一八九二(明治二五)年六月末のことである。その設立の主意書には「天下憐みへキモノ誠ニ多シ而シテ就中憐みへキモノ最も甚シキモノ孤児ノ及フモノナカルベシ」云々とあり、家庭や社会、国家から疎外された孤児たちの生活を守ることを表明し、覚悟している。その後孤児院は一八九九年二月に院報『孤児の友』後に『上毛孤児院月報』を発刊する。

一九世紀末は社会事業雑誌の草創期でもある。たとえば博愛社は『博愛雑誌』(一八九一年)や『博愛月報』(一八九九年)を、岡山孤児院は『岡山孤児院新報』(一八九六年)を刊行する。石井十次は「新聞は此世を支配する能力の権化なり 筆は剣なり剣は権なり」と当時の日誌に認めている。社会事業の世界でも新聞や雑誌といった活字媒体が人々のネットワークを築き、思想を運ぶ手段として認識されはじめた時代の証左である。

我々にかかる資料から当時の院に関わっている人々の思想や実践、院の状況、子どもの声、寄付者名等々を読み解いていくことができる。今回、『上毛孤児院関係資料集成』全五巻として雑誌や写真等貴重な資料が刊行されるという、今から待ち遠しい限りだ。近代日本のもう一つの側面を知り、歴史の全体像に近づくことができる。福祉関係のみならず、キリスト教、地域史、近代の歴史に関心ある人に読まれていくことを期待したい。

社会平等化への努力の証左 汐見稔幸(白梅学園大学学長)

いつの時代も自然の大災害は、まず貧しい人や子ども・老人を襲いますが、一八九一(明治二四)年の濃尾大地震でも親を失い孤児となってしまう子がたくさん出ました。そのことを聞いて、何とか孤児たちを預かって育ててやりたいとクリスチャン宮内文作らが遠く離れた地で開いたのが上毛孤児院ですが、今と異なり行政からの支援があったわけではありません。孤児の訓育の方法が教訓化されていたわけでもありません。それでも、関係者の努力によってこの孤児院が確かに子どもを育てていたことは、戦後に施設が制度化されるまで、関係者が必死に知恵を出し、慈善活動を工夫し、財源を確保し、院を維持、発展させていったことに実証されています。

その必死の努力、工夫、そして思いが、雑誌『孤児の友』『上毛孤児院月報』に描かれているのですが、このたびそれが復刻されて、はじめて多くの人がその全容を知ることができるようになりました。西の岡山孤児院に比して、東の上毛孤児院はこれまで一部の人を除いて詳しく知られていませんでした。私も含めて、この復刻によって、その全容をようやく知ることができるようになりました。

人は平等に生まれてきません。子どもが生まれた社会的環境は一人ひとり異なり、ある意味差別的で、その生得的な不平等をさまざまな努力を通じて後天的にできるだけ平等に近づけるのが社会の責務ですが、上毛孤児院の歴史は、近代日本人のこの平等化への努力の、大切な証左となるでしょう。



北海道農場での
蕎麦の収穫

上毛の地から発信されたキリスト教福祉事業誌

藤岡一雄（元共愛学園中学・高等学校教師）

我が郷土近代群馬の夜明けは養蚕・製糸とキリスト教に特徴づけられる。幕末から明治初期上州産生糸はその秀逸性の由に世界に雄飛した。同時期、新島襄は国禁を侵して渡米、彼の地で学び終えて明治初年、准宣教師として、帰国後、県内に伝道して群馬を日本に冠たるキリスト教県となしている。この新島の熱烈なファン・クリスチャンたちが一八九二年、県都前橋に開設したのが「上毛孤児院」である。その主たる支え手もまた新島の息のかかった県内の養蚕、蚕種、製糸、絹織物を営む地域の素封家・名望家で占められ、これにアメリカン・ボード（米国伝道会社）の宣教師が加わっていた。同時期、彼らは女学校（共愛学園）、幼稚園（清心幼稚園）等を次々に立ち上げ、社会的弱者に光を当てた。特筆すべきはその全てが今でも存続していることであり、上毛孤児院も現在、「上毛愛隣社」と改称してその一角をなしている。

『孤児の友』『上毛孤児院月報』と改称）は奇しくも上毛最強のキリスト教文筆家柏木義円が主幹した『上毛教界月報』発刊の翌一八九九年に院の広告宣伝を兼ねた活動報告誌として出されたもので戦前期の院の歩みのほぼ全容を今に伝える。

本資料復刻は過ぎ越し群馬の近代を読み解き、来るべき福祉時代の郷土を模索する貴重な一書と確信し推薦の辞としたい。



明治三陸大地震によって保護者を失った子どもたち



北海道農場寮舎



草創期社会事業の原点を探る資料集成

松本園子（白梅学園大学子ども学部教授）

本資料集成の発行により、多くの人が、明治期に設立された上毛孤児院の全貌にふれることが可能となりました。収録された『孤児の友』『上毛孤児院月報』等の史料を丹念に読み込めば、宮内文作、金子尚雄ら上毛孤児院の創設者、実践者の思想と苦闘を詳細に捉えることができ、社会事業史研究に資すること大であると思われまふ。

また、これらの史料は、上毛孤児院を必要とした子どもたちの実態も教えてくれます。例えば、『孤児の友』第一号には、ある院児の履歴が掲載されています。母を亡くし、父を亡くして孤児となつて弟とともに保護された院児が語る自らの境遇は、涙無くしては読めません。これは明治期日本の底辺社会のまぎれもない子どもの生活の姿だったのでしょ。子どもの生活史研究のためにも、本資料集成は豊富な資料を提供してくれることと思います。付録DVDの幻灯資料も楽しみです。

[illegible]

一 勿違ひて仕方の衆多き
 を服する能はぬ一 此一て呪詛の
 つかぬきい之れ美に衣洗は
 て煙火の許方限り衣服を洗
 し力のて開き誘導せんこと
 為すに記して冥想意を討せ
 穿眼射梁を脱てハ在米ハ
 一て其事親を得他ハ創立に
 せられし外人の寄附金を贈
 て其工を致ふるを修むる事
 敷地贖人に代てに住居人
 敷地贖人に代てに住居人

●活動写真「小公子」ポスター（一九二二年）

内容見本
第5巻より
〈縮小してあります〉

第5巻『上毛孤児院関係資料』収録内容

みなしてへの同情
告別の辞
二日の旅行
札幌矯風会諸氏に告ぐ
憶記録
一銭会設立趣意
陰徳陽報
明治28年日記
孤児院記録
思う婦しふし
25年の回顧
童話の栞
設立趣意書
孤児救済軍
激励の手紙
二年目報告
四年目報告
北毛巡回記
芸妓出演辞退
財団法人認可願・許可
収容方針
名称変更勧告
救済事業調査
月報発行部数調査
上毛孤児院規則
上毛孤児院概則
修交会規則
慈善袋 2種類 表裏
十年紀
小さき母の原稿
農場借用
農地払い下げ
園芸部開設
農業部資金募集趣意書
開拓成功を認める文書
クオパデイスポスター
小公子ポスター
上毛孤児院記
25年の回顧
降誕祭会話(クリスマス劇の脚本)

既刊図書

●岡田靖雄・小峯和茂・橋本明Ⅱ編・解説
編集復刻版
『精神障害者問題資料集成』戦前編
全9巻

精神障害者は日本の近代をどう生きたか——
戦前期、「私宅監置」という名のもとで、精神障害者は治療を放棄され、社会生活から隔離され、人権を無視した監禁状態を強いられていた。
近代の日本の精神障害者が置かれた状況をさまざまな面から明らかにする、諸資料を復刻!

- A4判・上製・各巻約350p／揃定価225,000円＋税
- 第1回配本 第1巻～第3巻 75,000円＋税
ISBN978-8350-6800-8
- 第2回配本 第4巻～第6巻 75,000円＋税
ISBN978-4-905421-00-9
- 第3回配本 第7巻～第9巻 75,000円＋税
ISBN978-4-905421-04-7



刊行予定

●橋本明Ⅱ著
『精神病者と私宅監置』
——近代日本精神医療史の基礎的研究

日本の精神医療史にとってきわめて重大な問題である「私宅監置」すなわち患者の家族が警察に届け出て自宅に患者を監禁してきたこと——についての初めての実証的研究。
患者・家族・地域社会の視点から精神病者と看護者・地域・病院・行政の問題をとらえ直す。
●A5判・上製・240頁／定価4,000円＋税
ISBN978-4-905421-08-5



●寺脇隆夫・庄司拓也Ⅱ解説
復刻版『私設社会事業』全3巻＋別冊1

一九三二年、民間社会事業団体の経営難と利用者増大という困難な時代に立ち上げられた全日本私設社会事業連盟の機関誌。創刊は一九三三年二月。戦前・戦中期の社会事業に関する論考と情報が満載された資料として貴重である。

- A4判・上製・総約二〇〇頁／揃定価六〇,〇〇〇円(予価)
- 二〇二二年刊行予定

●藤野豊Ⅱ編・解説
編集復刻版『戦後初期人身売買問題資料集成』

- 二〇二二年二月刊行予定

編集復刻版

『上毛孤児院』

関係資料集成』

全5巻＋付録DVD1枚

概要

◎体裁——B5判・A4判(第5巻のみ)・上製・2042ページ

◎揃定価——110,000円＋税

◎編・解説——宇都榮子(専修大学教授)

細谷啓介(上毛愛隣社理事長)

◎推薦——室田保夫(関西学院大学教授)

汐見稔幸(白梅学園大学学長)

藤岡一雄(元共愛学園中学・高等学校教師)

松本園子(白梅学園大学子ども学部教授)

◎構成内容

〔第1回配本〕

第1巻 『孤児の友』第1号～第49号 1899年2月～1903年2月 ◆444p

第2巻 『上毛孤児院月報』第50号～第83号 1903年3月～05年12月 ◆380p

付録DVD 『上毛愛隣社 幻灯資料』(上毛愛隣社編・解説)

定価45,000円＋税(2011年12月刊) ISBN978-4-905421-09-2

〔第2回配本〕

第3巻 『上毛孤児院月報』第84号～第116号 1906～08年 ◆368p

第4巻 『上毛孤児院月報』第117号～第145号／第146号～第177号の抄録 1909～39年 ◆468p

第5巻* 『上毛孤児院関係資料』＋解説 総目次Ⅱ内容索引CD-ROM付き ◆382p

定価65,000円＋税(2012年9月刊) ISBN978-4-905421-13-9



*表示価格はすべて税別。



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-42 電話 03-3293-8787 ファクシミリ 03-3293-8788